

平成28年社会生活基本調査結果の概要

平成30年3月

広島県総務局

統計課

【目次】

調査の概要	1
利用上の注意	1
用語	1
生活行動に関する結果	2
1 概況	2
2 学習・自己啓発・訓練	3
3 ボランティア活動	5
4 スポーツ	7
5 趣味・娯楽	9
6 旅行・行楽	11
生活時間に関する結果	13
1 概況	13
2 1次活動	15
(1) 1次活動	15
(2) 睡眠時間	15
3 2次活動	16
(1) 2次活動	16
(2) 仕事時間	17
(3) 家事時間	18
(4) 育児時間	19
4 3次活動	20
(1) 3次活動	20
(2) 休養等自由時間活動	21
(3) 積極的自由時間活動	21
(4) スマートフォン・パソコンなどの使用	22

【調査の概要】

社会生活基本調査は、生活時間の配分及び自由時間における主な活動について調査し、各種行政施策の基礎資料を得ることを目的として、平成 28 年 10 月 20 日現在で実施した。

この調査は、統計法に基づく基幹統計調査として、昭和 51 年以来 5 年ごとに行われており、平成 28 年調査はその 9 回目に当たる。

この調査の対象は、全国の指定する約 7,300 調査区（広島県で 145 調査区）内に居住する世帯から、無作為に選定した約 8 万 8 千世帯（同約 1,700 世帯）の、10 歳以上の世帯員約 20 万人（同約 3,800 人）で、調査員が調査世帯ごとに調査票を配布、収集及び質問することにより、調査を行った。

この概要は、総務省統計局による平成 29 年 7 月、9 月及び 12 月付け調査結果の公表を受けて、広島県の結果についてとりまとめたものである。

【利用上の注意】

- 1 生活時間に関する結果では、特に断りのない限り、総平均時間¹⁾及び週全体平均²⁾の数値を記載している。
- 2 統計表の数字は、表章単位未満の位で四捨五入してあること、また、総数に分類不能、不詳の数を含むことから、総数と内訳を合計した数値とは必ずしも一致しない。
- 3 統計表中の「0」、「0.0」、「0.00」は、集計した数値が表章単位に満たないものである。

【用語】

- 1 次活動……睡眠、食事など生理的に必要な活動
 - 2 次活動……仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動
 - 3 次活動……1 次活動、2 次活動以外で各人が自由に使える時間における活動
- 行動者率……10 歳以上人口に占める過去 1 年間（平成 27 年 10 月 20 日～平成 28 年 10 月 19 日）に該当する種類の活動を行った人の割合（%）

1) 該当する種類の行動をしなかった人を含む全員の平均

2) 平日、土曜日、日曜日の曜日別結果の平均

【生活行動に関する結果】

1 概況

○ 前回と比べると、スポーツは 66.5%で 3.8 ポイント上昇、旅行・行楽は 70.1%で 4.4 ポイント低下

1年間の生活行動をみると、学習・自己啓発・訓練は 34.3%，ボランティア活動は 25.6%，スポーツは 66.5%，趣味・娯楽は 87.1%，旅行・行楽は 70.1%となっている。平成 23 年と比べると、学習・自己啓発・訓練は 0.9 ポイント低下，ボランティア活動は 3.3 ポイント低下，スポーツは 3.8 ポイント上昇，趣味・娯楽は 0.4 ポイント上昇，旅行・行楽は 4.4 ポイント低下となっている。(図 1-1, 表 1-1)

男女別にみると、スポーツ，趣味・娯楽及びボランティア活動では男性が高く，旅行・行楽及び学習・自己啓発・訓練では女性が高くなっている。(図 1-2, 表 1-2)

図 1-1 行動の種類別行動者率 (平成 23 年, 28 年)

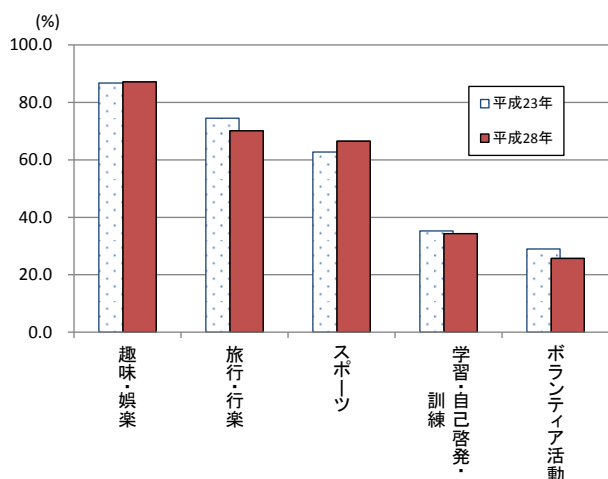


表 1-1 行動の種類別行動者率 (平成 23 年, 28 年)

	平成23年 (%)	平成28年 (%)	前回の差 (ポイント)	(参考) 全国28年 (%)
趣味・娯楽	86.7	87.1	0.4	87.0
旅行・行楽	74.5	70.1	△ 4.4	73.5
スポーツ	62.7	66.5	3.8	68.8
学習・自己啓発・訓練	35.2	34.3	△ 0.9	36.9
ボランティア活動	28.9	25.6	△ 3.3	26.0

図 1-2 行動の種類, 男女別行動者率

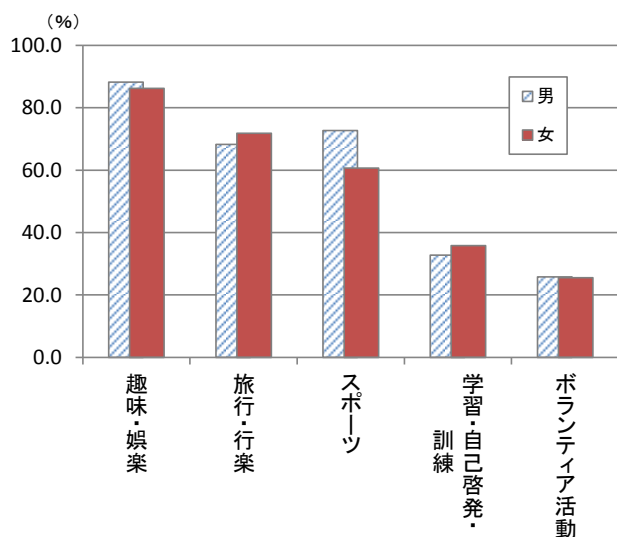


表 1-2 行動の種類, 男女別行動者率

	男 (%)	女 (%)	差 (男-女) (ポイント)
趣味・娯楽	88.2	86.2	2.0
旅行・行楽	68.3	71.8	△ 3.5
スポーツ	72.7	60.7	12.0
学習・自己啓発・訓練	32.8	35.8	△ 3.0
ボランティア活動	25.8	25.5	0.3

2 学習・自己啓発・訓練

- 前回と比べると，男性は1.5ポイント低下，女性は0.2ポイント低下
- 男性はパソコンなどの情報処理が12.8%と最も高く，女性は家政・家事が17.0%と最も高い

学習・自己啓発・訓練¹⁾の行動者率は，男性は32.8%，女性は35.8%となっており，女性が男性より3ポイント高くなっている。平成23年と比べると，男性は1.5ポイント低下，女性は0.2ポイント低下している。(表2-1)

年齢階級別にみると，男性は15～24歳が42.2%，女性は10～14歳が60.9%と最も高くなっている。平成23年と比べると，増減幅が最も大きい年齢階級は10～14歳で，男性は7ポイントの低下，女性は14.2ポイントの上昇となっている。(図2-1，表2-1)

図2-1 学習・自己啓発・訓練の男女，年齢階級別行動者率
(平成23年，28年)

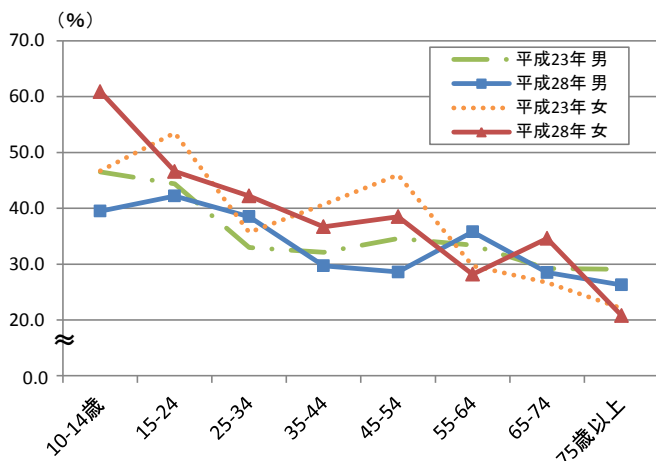


表2-1 学習・自己啓発・訓練の男女，年齢階級別行動者率
(平成23年，28年)

	男			女		
	平成23年	平成28年	前回の差 (ポイント)	平成23年	平成28年	前回の差 (ポイント)
総数	34.3	32.8	△ 1.5	36.0	35.8	△ 0.2
10～14歳	46.5	39.5	△ 7.0	46.7	60.9	14.2
15～24歳	44.4	42.2	△ 2.2	53.5	46.6	△ 6.9
25～34歳	33.0	38.5	5.5	35.7	42.2	6.5
35～44歳	32.1	29.7	△ 2.4	40.7	36.7	△ 4.0
45～54歳	34.6	28.6	△ 6.0	46.0	38.5	△ 7.5
55～64歳	33.4	35.8	2.4	29.7	28.2	△ 1.5
65～74歳	29.2	28.5	△ 0.7	26.7	34.6	7.9
75歳以上	29.1	26.3	△ 2.8	22.1	20.8	△ 1.3

種類，男女別にみると，男性はパソコンなどの情報処理が12.8%と最も高く，次いで英語が9.8%，商業実務・ビジネス関係が9.3%などとなっている。女性は家政・家事が17.0%と最も高く，次いで芸術・文化が12.2%，パソコンなどの情報処理が8.9%などとなっている。(図2-2，表2-2)

1) 「学習・自己啓発・訓練」は，社会人の職場研修や，児童・生徒・学生が学業（授業，予習，復習）として行うものは除き，クラブ活動や部活動は含む

図 2-2 学習・自己啓発・訓練の種類，男女別行動者率

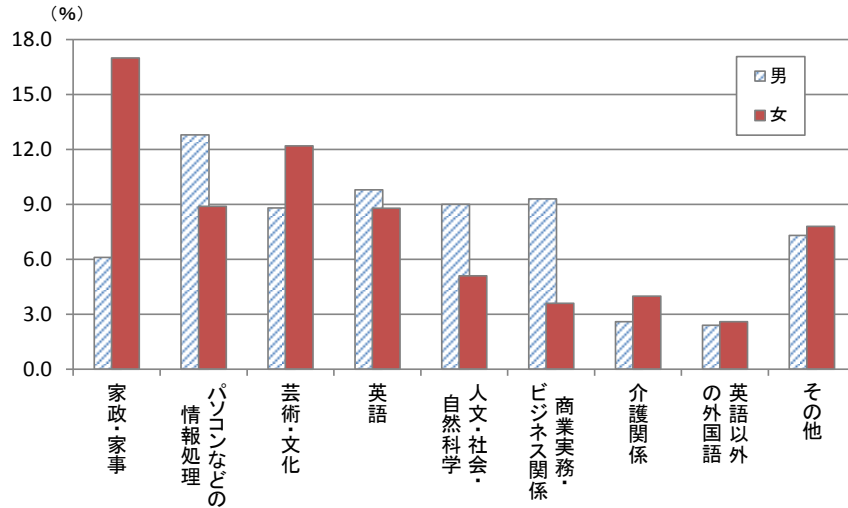


表 2-2 学習・自己啓発・訓練の種類，男女別行動者率

	家政・家事	パソコンなどの情報処理	芸術・文化	英語	人文・社会・自然科学	商業実務・ビジネス関係	介護関係	英語以外の外国語	その他
総数	11.7	10.8	10.6	9.3	7.0	6.4	3.3	2.5	7.6
男	6.1	12.8	8.8	9.8	9.0	9.3	2.6	2.4	7.3
女	17.0	8.9	12.2	8.8	5.1	3.6	4.0	2.6	7.8

図 2-3 主な学習・自己啓発・訓練の種類，男女，年齢階級別行動者率

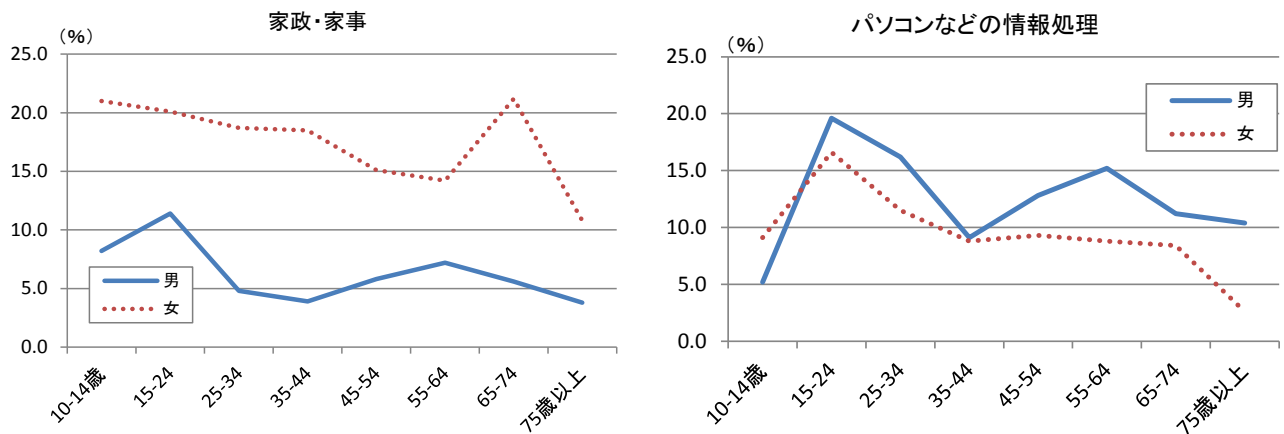


表 2-3 主な学習・自己啓発・訓練の種類，男女，年齢階級別行動者率

	男	女	差(男-女)
総数	6.1	17.0	△ 10.9
10～14歳	8.2	21.0	△ 12.8
15～24歳	11.4	20.1	△ 8.7
25～34歳	4.8	18.7	△ 13.9
35～44歳	3.9	18.5	△ 14.6
45～54歳	5.8	15.1	△ 9.3
55～64歳	7.2	14.2	△ 7.0
65～74歳	5.6	21.2	△ 15.6
75歳以上	3.8	10.8	△ 7.0

	男	女	差(男-女)
総数	12.8	8.9	3.9
10～14歳	5.2	9.1	△ 3.9
15～24歳	19.6	16.6	3.0
25～34歳	16.2	11.5	4.7
35～44歳	9.1	8.8	0.3
45～54歳	12.8	9.3	3.5
55～64歳	15.2	8.8	6.4
65～74歳	11.2	8.4	2.8
75歳以上	10.4	2.6	7.8

3 ボランティア活動

- 前回と比べると、男性は 2.3 ポイント低下、女性は 4.2 ポイント低下
- まちづくりのための活動が、男性 15.2%、女性 10.9%と最も高い

ボランティア活動¹⁾の行動者率は、男女別にみると、男性は 25.8%、女性は 25.5%となっており、男性が女性より 0.3 ポイント高くなっている。平成 23 年と比べると、男性は 2.3 ポイント低下、女性は 4.2 ポイント低下となっている。(表 3-1)

年齢階級別にみると、男性は 65～74 歳が 31.9%、女性は 45～54 歳で 38.0%と最も高くなっている。(図 3-1, 表 3-1) 平成 23 年と比べると、増減幅が最も大きい年齢階級は 25～34 歳で、男性は 10.3 ポイントの低下、女性は 11.8 ポイントの低下となっている。(図 3-1, 表)

図 3-1 ボランティア活動の男女、年齢階級別行動者率
(平成 23 年, 28 年)

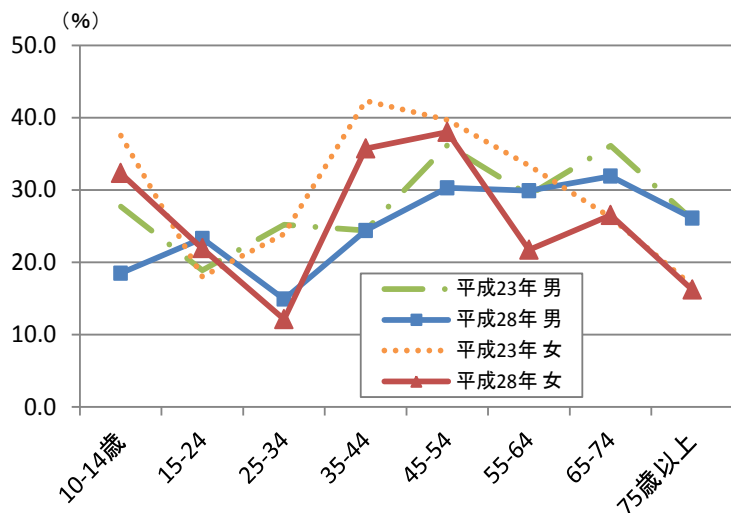


表 3-1 ボランティア活動の男女、年齢階級別行動者率
(平成 23 年, 28 年)

	男			女		
	平成23年	平成28年	前回との差 (ポイント)	平成23年	平成28年	前回との差 (ポイント)
総数	28.1	25.8	△ 2.3	29.7	25.5	△ 4.2
10～14歳	27.7	18.5	△ 9.2	37.5	32.3	△ 5.2
15～24歳	18.9	23.3	4.4	18.0	21.9	3.9
25～34歳	25.2	14.9	△ 10.3	23.9	12.1	△ 11.8
35～44歳	24.4	24.4	0.0	42.3	35.7	△ 6.6
45～54歳	36.2	30.3	△ 5.9	39.7	38.0	△ 1.7
55～64歳	29.3	29.9	0.6	33.4	21.7	△ 11.7
65～74歳	36.1	31.9	△ 4.2	26.2	26.5	0.3
75歳以上	25.9	26.1	0.2	16.8	16.2	△ 0.6

種類、男女別にみると、男性は、まちづくりのための活動が 15.2%と最も高く、次いで子供を対象とした活動が 6.2%、スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動が 4.4%などとなっている。女性は、まちづくりのための活動が 10.9%と最も高く、次いで子供を対象とした活動が 10.6%、高齢者を対象とした活動が 4.7%などとなっている。(図 3-2, 表 3-2)

1) 報酬を目的としないで自分の労力、技術、時間を提供して地域社会や個人・団体の福祉増進のために行うもの

図 3-2 ボランティア活動の種類、男女別行動者率

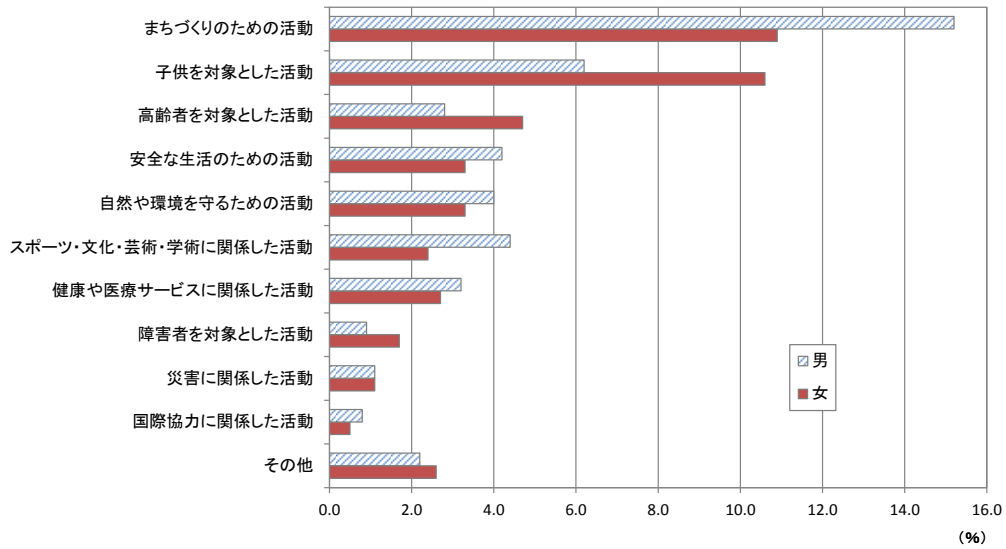


表 3-2 ボランティア活動の種類、男女別行動者率

	まちづくりのための活動	子供を対象とした活動	高齢者を対象とした活動	安全な生活のための活動	自然や環境を守るための活動	スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動	健康や医療サービスに関係した活動	障害者を対象とした活動	災害に関係した活動	国際協力に関係した活動	その他
総数	13.0	8.5	3.8	3.7	3.6	3.4	2.9	1.3	1.1	0.6	2.4
男	15.2	6.2	2.8	4.2	4.0	4.4	3.2	0.9	1.1	0.8	2.2
女	10.9	10.6	4.7	3.3	3.3	2.4	2.7	1.7	1.1	0.5	2.6

図 3-3 主なボランティア活動の種類、男女別行動者率

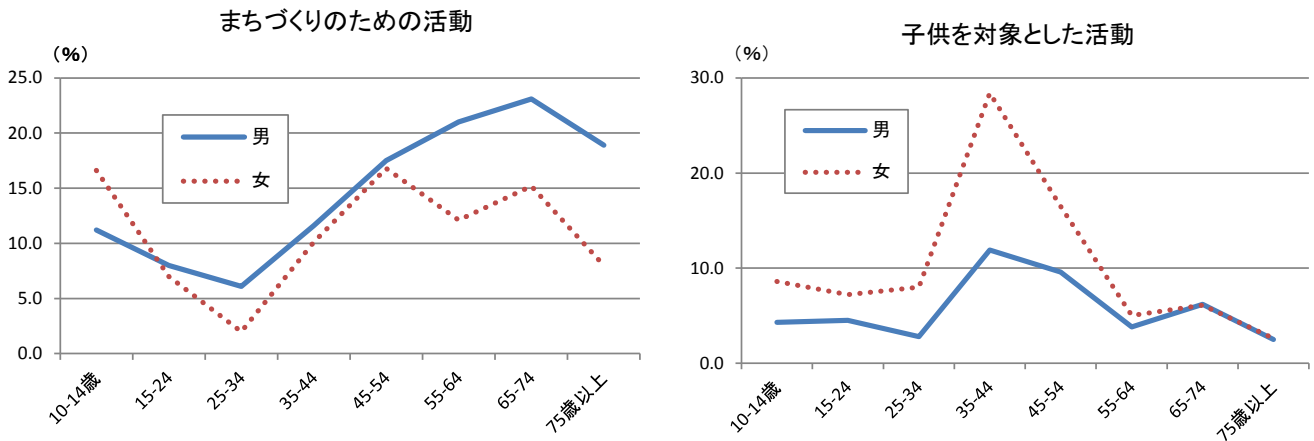


表 3-3 主なボランティア活動の種類、男女別行動者率

	男	女	差(男-女)
総数	15.2	10.9	4.3
10~14歳	11.2	16.6	△ 5.4
15~24歳	8.0	7.0	1.0
25~34歳	6.1	2.0	4.1
35~44歳	11.6	10.1	1.5
45~54歳	17.5	16.8	0.7
55~64歳	21.0	12.1	8.9
65~74歳	23.1	15.2	7.9
75歳以上	18.9	8.0	10.9

	男	女	差(男-女)
総数	6.2	10.6	△ 4.4
10~14歳	4.3	8.6	△ 4.3
15~24歳	4.5	7.2	△ 2.7
25~34歳	2.8	8.0	△ 5.2
35~44歳	11.9	28.4	△ 16.5
45~54歳	9.6	16.5	△ 6.9
55~64歳	3.8	5.0	△ 1.2
65~74歳	6.2	6.1	0.1
75歳以上	2.5	2.6	△ 0.1

4 スポーツ

- 前回と比べると、男性は3.6ポイント上昇、女性は3.8ポイント上昇
- ウォーキング・軽い体操が、男性35.2%、女性41.6%と最も高い

スポーツ¹⁾の行動者率は、男女別にみると、男性は72.7%、女性は60.7%となっており、男性が女性より12ポイント高くなっている。平成23年と比べると、男性は3.6ポイント上昇、女性は3.8ポイント上昇となっている。(表4-1)

年齢階級別にみると、男女共に10～14歳が最も高くなっており、男性は96.9%、女性は81.2%となっている。平成23年と比べると、男性は15～24歳及び45～54歳を除く全ての年齢階級で上昇となっており、女性は15～24歳及び55～64歳を除く全ての年齢階級で上昇となっている。(図4-1, 表4-1)

図4-1 「スポーツ」の男女、年齢階級別行動者率
(平成23年, 28年)

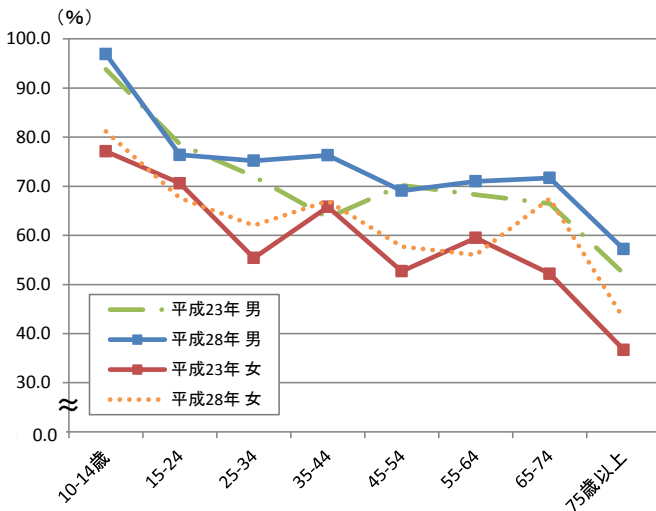


表4-1 「スポーツ」の男女、年齢階級別行動者率
(平成23年, 28年)

	男			女		
	平成23年	平成28年	前回との差 (ポイント)	平成23年	平成28年	前回との差 (ポイント)
総数	69.1	72.7	3.6	56.9	60.7	3.8
10～14歳	93.8	96.9	3.1	77.1	81.2	4.1
15～24歳	78.6	76.4	△ 2.2	70.6	67.6	△ 3.0
25～34歳	72.0	75.2	3.2	55.4	62.0	6.6
35～44歳	63.6	76.3	12.7	65.8	67.0	1.2
45～54歳	70.2	69.1	△ 1.1	52.7	57.7	5.0
55～64歳	68.3	71.0	2.7	59.5	56.0	△ 3.5
65～74歳	66.5	71.7	5.2	52.2	67.5	15.3
75歳以上	52.2	57.2	5.0	36.7	43.0	6.3

種類、男女別にみると、男性は、ウォーキング・軽い体操が35.2%と最も高く、次いでつりが19.3%、ボウリングが15.2%などとなっている。女性は、ウォーキング・軽い体操が41.6%と最も高く、次いで器具を使ったトレーニングが12.3%、ボウリングが9.9%などとなっている。(図4-2, 表4-2)

1) 職業スポーツ選手が仕事で行うものや、学生が体育の授業で行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む

図 4-2 スポーツの種類、男女別行動者率

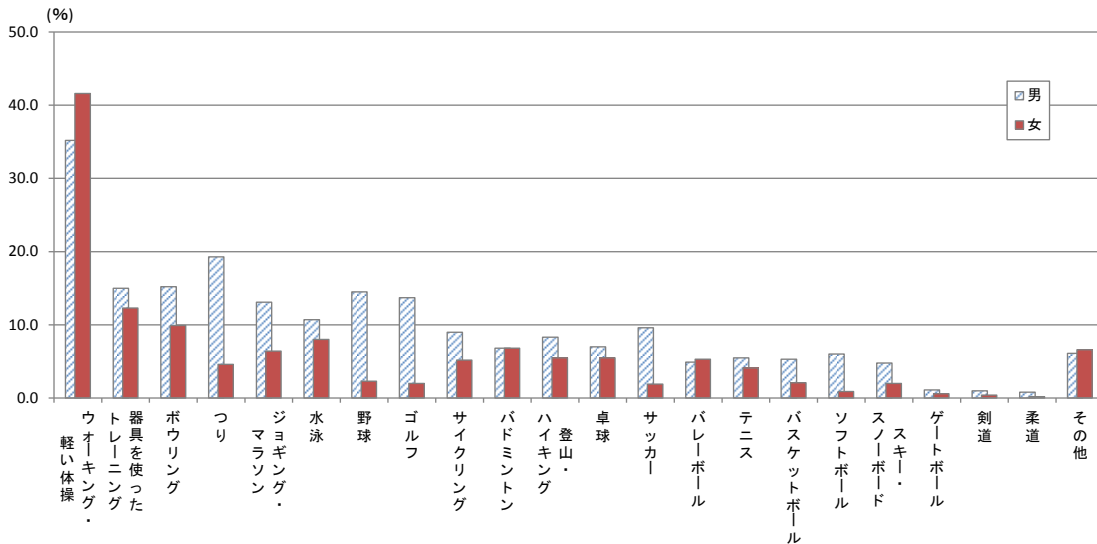


表 4-2 スポーツの種類、男女別行動者率

	ウォーキング・軽い体操	器具を使ったトレーニング	ポウリング	つり	ジョギング・マラソン	水泳	野球	ゴルフ	サイクリング	バドミントン	登山・ハイキング
総数	38.5	13.6	12.5	11.7	9.6	9.3	8.2	7.7	7.0	6.8	6.8
男	35.2	15.0	15.2	19.3	13.1	10.7	14.5	13.7	9.0	6.8	8.3
女	41.6	12.3	9.9	4.6	6.4	8.0	2.3	2.0	5.2	6.8	5.5

	卓球	サッカー	バレーボール	テニス	バスケットボール	ソフトボール	スキー・スノーボード	ゲートボール	剣道	柔道	その他
総数	6.2	5.6	5.1	4.8	3.7	3.4	3.4	0.8	0.7	0.5	6.3
男	7.0	9.6	4.9	5.5	5.3	6.0	4.8	1.1	1.0	0.8	6.1
女	5.5	1.9	5.3	4.1	2.1	0.9	2.0	0.6	0.4	0.2	6.6

図 4-3 主なスポーツの種類、男女、年齢階級別行動者率

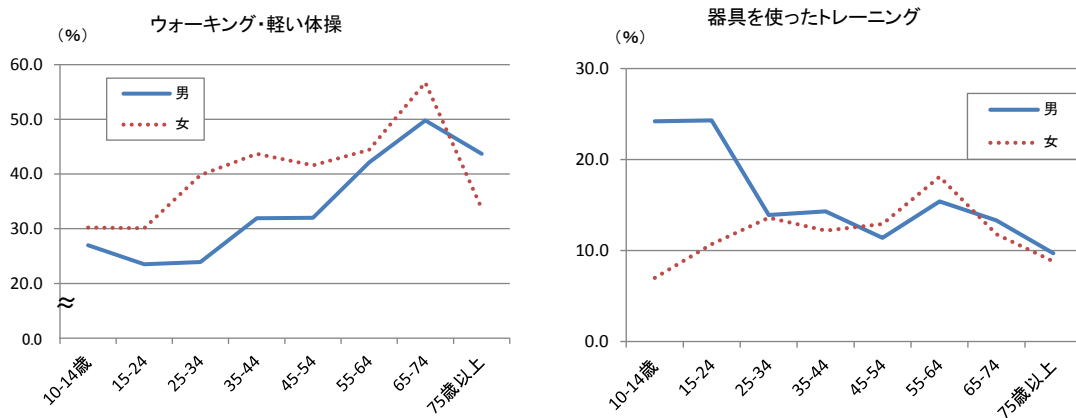


表 4-3 主なスポーツの種類、男女、年齢階級別行動者率

	男	女	差(男-女)
総数	35.2	41.6	△ 6.4
10~14歳	27.0	30.2	△ 3.2
15~24歳	23.5	30.1	△ 6.6
25~34歳	23.9	39.8	△ 15.9
35~44歳	31.9	43.7	△ 11.8
45~54歳	32.0	41.6	△ 9.6
55~64歳	42.1	44.4	△ 2.3
65~74歳	49.8	56.7	△ 6.9
75歳以上	43.7	33.7	10.0

	男	女	差(男-女)
総数	15.0	12.3	2.7
10~14歳	24.2	7.0	17.2
15~24歳	24.3	10.7	13.6
25~34歳	13.9	13.6	0.3
35~44歳	14.3	12.2	2.1
45~54歳	11.4	12.9	△ 1.5
55~64歳	15.4	18.1	△ 2.7
65~74歳	13.3	11.8	1.5
75歳以上	9.7	8.8	0.9

5 趣味・娯楽

- 前回と比べると、男性は1.5ポイント上昇、女性は0.5ポイント低下
- スポーツ観覧は32.9%で全国1位

趣味・娯楽の行動者率は、男女別にみると、男性は88.2%、女性は86.2%となっており、男性が女性より2ポイント高くなっている。平成23年と比べると、男性は1.5ポイント上昇、女性は0.5ポイント低下となっている。(表5-1)

年齢階級別にみると、男性は15～24歳が94.1%、女性は35～44歳で96.1%と最も高くなっている。(図5-1、表5-1)平成23年と比べると、男性は10～14歳及び45～54歳を除く全ての年齢階級で上昇となっており、女性は35～74歳で上昇、10～34歳及び75歳以上で低下となっている。(図5-1、表5-1)

図5-1 趣味・娯楽の男女、年齢階級別行動者率
(平成23年、28年)

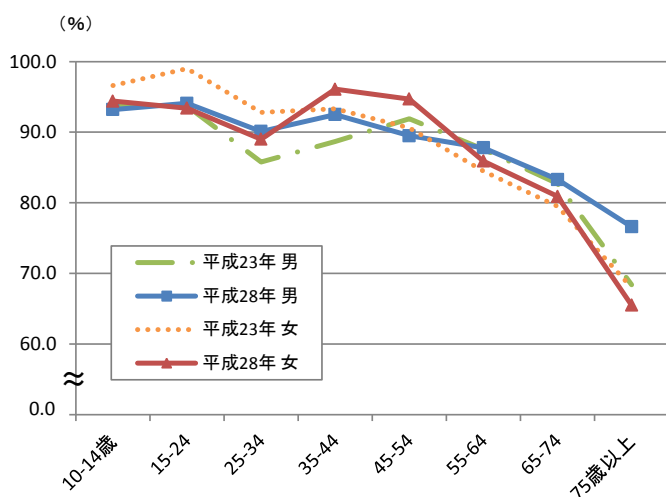


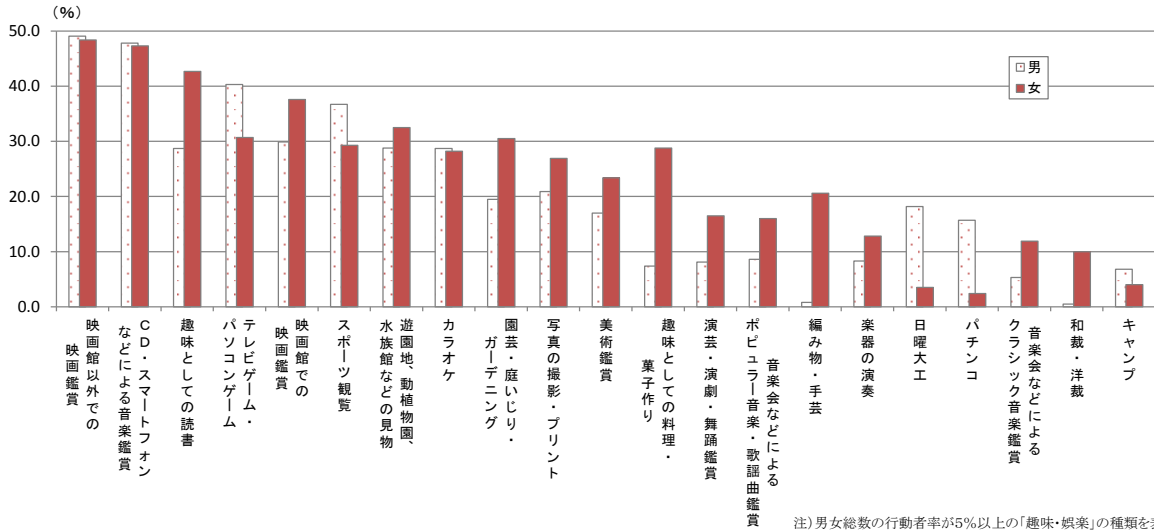
表5-1 趣味・娯楽の男女、年齢階級別行動者率
(平成23年、28年)

	男			女		
	平成23年	平成28年	前回の差 (ポイント)	平成23年	平成28年	前回の差 (ポイント)
総数	86.7	88.2	1.5	86.7	86.2	△ 0.5
10～14歳	93.8	93.2	△ 0.6	96.6	94.4	△ 2.2
15～24歳	93.7	94.1	0.4	99.0	93.4	△ 5.6
25～34歳	85.8	90.1	4.3	92.8	89.0	△ 3.8
35～44歳	88.7	92.5	3.8	93.3	96.1	2.8
45～54歳	91.9	89.5	△ 2.4	90.6	94.7	4.1
55～64歳	87.6	87.8	0.2	84.5	85.9	1.4
65～74歳	82.7	83.3	0.6	79.5	80.9	1.4
75歳以上	68.4	76.6	8.2	68.0	65.5	△ 2.5

種類、男女別にみると、男性は、映画館以外での映画鑑賞が49.1%と最も高く、次いでCD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞が47.8%、テレビゲーム・パソコンゲームが40.3%などとなっている。女性は、映画館以外での映画鑑賞が48.4%と最も高く、次いでCD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞が47.3%趣味としての読書が42.7%などとなっている。(図5-2、表5-2)

なお、スポーツ観覧は32.9% (男性:36.7%, 女性29.3%) で、全国平均(21.5%)を大きく上回り、全国1位となっている。(表5-3、表5-4)

図 5-2 趣味・娯楽の種類、男女別行動者率



注) 男女総数の行動者率が5%以上の「趣味・娯楽」の種類を表す

表 5-2 趣味・娯楽の種類、男女別行動者率

	映画館以外の映画鑑賞	CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞	趣味としての読書	テレビゲーム・パソコンゲーム	映画館での映画鑑賞	スポーツ観覧	遊園地、動物園、水族館などの見物	カラオケ	園芸・庭いじり・ガーデニング	写真の撮影・プリント	美術鑑賞
総数	48.7	47.5	35.9	35.3	33.9	32.9	30.7	28.4	25.1	24.0	20.3
男	49.1	47.8	28.7	40.3	29.9	36.7	28.8	28.7	19.5	20.9	17.0
女	48.4	47.3	42.7	30.7	37.6	29.3	32.5	28.2	30.5	26.9	23.4

	趣味としての料理・菓子作り	演芸・演劇・舞踊鑑賞	音楽会などによるポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞	編み物・手芸	楽器の演奏	日曜大工	パチンコ	音楽会などによるクラシック音楽鑑賞	和裁・洋裁	キャンプ
	18.4	12.4	12.4	11.0	10.6	10.6	8.8	8.7	5.4	5.4
男	7.4	8.1	8.6	0.8	8.3	18.2	15.7	5.3	0.5	6.8
女	28.8	16.5	16.0	20.6	12.8	3.5	2.4	11.9	10.0	4.0

図 5-3 スポーツ観覧の男女、年齢階級別行動者率

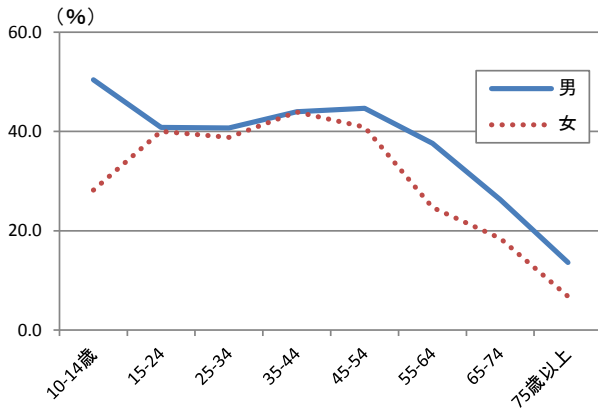


表 5-3 スポーツ観覧の男女、年齢階級別行動者率

	男	女	差(男-女)
総数	36.7	29.3	7.4
10~14歳	50.4	28.2	22.2
15~24歳	40.8	40.0	0.8
25~34歳	40.7	38.8	1.9
35~44歳	44.0	43.9	0.1
45~54歳	44.7	40.9	3.8
55~64歳	37.6	24.7	12.9
65~74歳	26.3	18.5	7.8
75歳以上	13.6	6.8	6.8

表 5-4 スポーツ観覧のランキング (行動者率)

順位	都道府県名	%
1	広島県	32.9
2	宮城県	26.4
3	福岡県	26.1
4	神奈川県	25.3
5	北海道	24.6
6	東京都	23.8
7	千葉県	23.0
8	愛知県	22.9
9	佐賀県	22.7
10	兵庫県	22.5
	全国平均	21.5

6 旅行・行楽

- 前回と比べると、男性は5.7ポイント低下、女性は3.2ポイント低下
- 男性は10～14歳で86.2%と最も高く、女性は35～44歳で85.1%と最も高い

旅行・行楽¹⁾の行動者率は、男女別にみると、男性は68.3%、女性は71.8%となっており、女性が男性より3.5ポイント高くなっている。平成23年と比べると、男性は5.7ポイント低下、女性は3.2ポイント低下となっている。(表6-1)

年齢階級別にみると、男性は10～14歳が86.2%、女性は35～44歳が85.1%と最も高くなっている。平成23年と比べると、男女共に10～14歳及び35～44歳を除く全ての年齢階級で低下となっている。(図6-1、表6-1)

図6-1 旅行・行楽の男女、年齢階級別行動者率
(平成23年、28年)

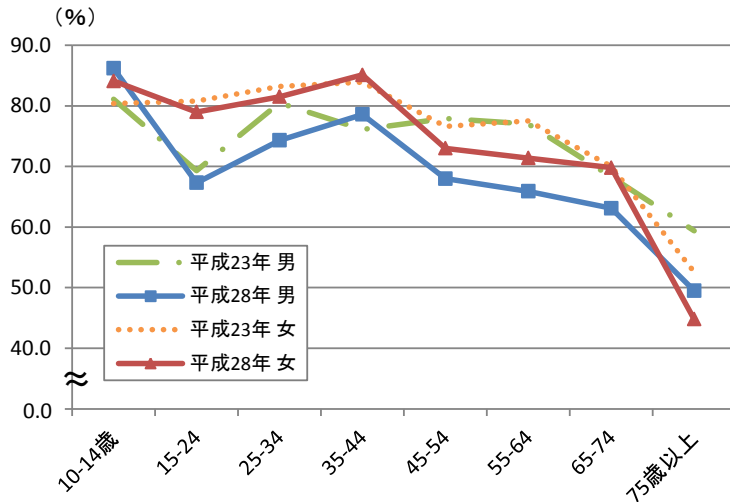


表6-1 旅行・行楽の男女、年齢階級別行動者率
(平成23年、28年)

	男			女		
	平成23年	平成28年	前回との差 (ポイント)	平成23年	平成28年	前回との差 (ポイント)
総数	74.0	68.3	△ 5.7	75.0	71.8	△ 3.2
10～14歳	81.1	86.2	5.1	80.4	84.1	3.7
15～24歳	69.3	67.3	△ 2.0	80.8	79.0	△ 1.8
25～34歳	80.5	74.3	△ 6.2	83.2	81.5	△ 1.7
35～44歳	76.1	78.6	2.5	83.9	85.1	1.2
45～54歳	77.9	68.0	△ 9.9	76.6	73.0	△ 3.6
55～64歳	77.0	65.9	△ 11.1	77.5	71.4	△ 6.1
65～74歳	68.3	63.1	△ 5.2	70.0	69.8	△ 0.2
75歳以上	59.4	49.5	△ 9.9	52.6	44.8	△ 7.8

種類別にみると、行楽(日帰り)が57.9%、観光旅行では国内が44.0%、海外が4.2%などとなっている。平成23年と比べると、帰省・訪問などの旅行が0.9ポイント低下、行楽(日帰り)が2.8ポイント低下、観光旅行(国内)が0.4ポイント低下、観光旅行(海外)が3.9ポイント低下などとなっている。(図6-2、表6-2)

観光旅行(国内)を、男女、年齢階級別にみると、男性は10～14歳で55.5%と最も高く、女性は15～24歳で58.3%と最も高くなっている。(図6-3、表6-3)

1) 旅行は1泊2日以上、行楽は宿泊を伴わず半日以上かけて行うもので、仕事や学業などで行うものは含む

図 6-2 旅行・行楽の種類，男女別行動者率（平成 23 年，28 年）

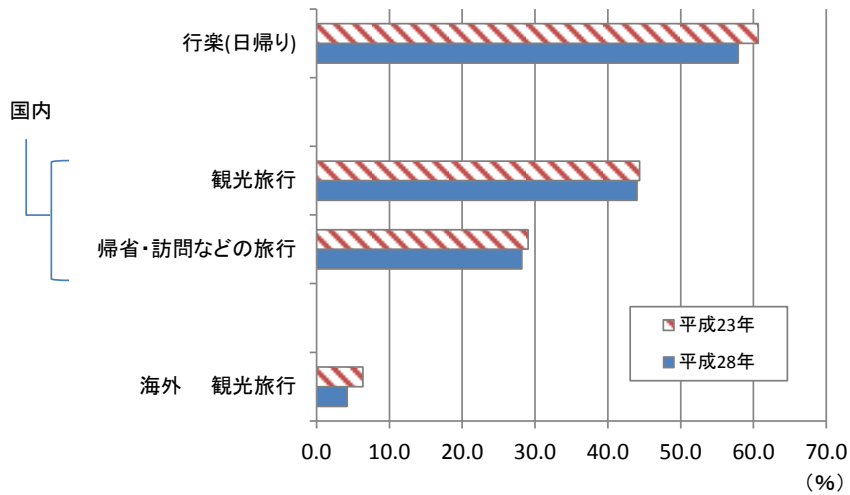


図 6-2 旅行・行楽の種類，男女別行動者率（平成 23 年，28 年）

	総数	行楽 (日帰り)	旅行(1泊2日以上)				
			総数	国内		海外旅行	
				総数	観光旅行		帰省・訪問等の旅行
平成23年	74.5	60.7	59.3	58.2	44.4	29.1	8.1
平成28年	70.1	57.9	54.2	53.5	44.0	28.2	4.2
前回との差(ポイント)	△ 4.4	△ 2.8	△ 5.1	△ 4.7	△ 0.4	△ 0.9	△ 3.9
(参考)全国28年	73.5	59.3	59.1	58.0	48.9	26.0	7.2

図 6-3 観光旅行（国内）の男女，年齢階級別行動者率（平成 23 年，28 年）

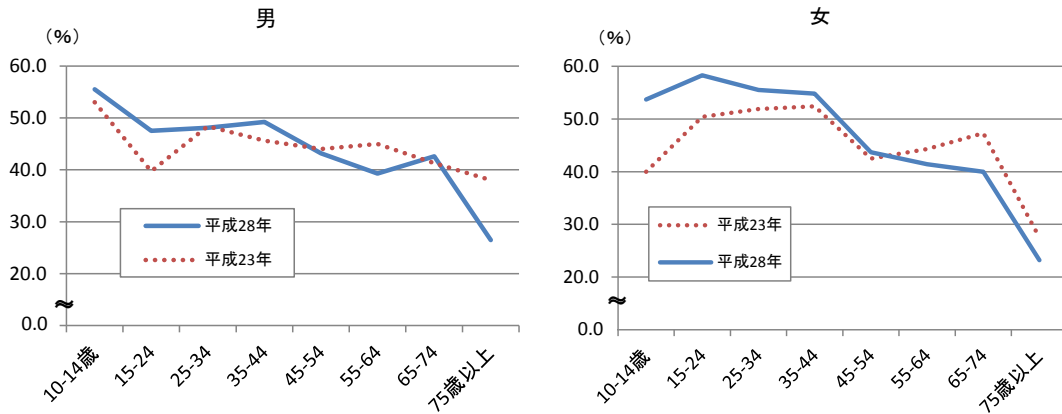


表 6-3 観光旅行（国内）の男女，年齢階級別行動者率（平成 23 年，28 年）

	男 (%、ポイント)			女 (%、ポイント)		
	平成23年	平成28年	差(男-女)	平成23年	平成28年	差(男-女)
総数	44.1	43.5	0.6	44.7	50.3	△ 5.6
10～14歳	53.0	55.5	△ 2.5	40.0	58.6	△ 18.6
15～24歳	39.7	47.5	△ 7.8	50.4	60.6	△ 10.2
25～34歳	48.4	48.1	0.3	51.9	64.9	△ 13.0
35～44歳	45.6	49.2	△ 3.6	52.4	59.8	△ 7.4
45～54歳	44.0	43.2	0.8	42.5	49.3	△ 6.8
55～64歳	45.0	39.3	5.7	44.3	50.1	△ 5.8
65～74歳	41.3	42.6	△ 1.3	47.3	45.8	1.5
75歳以上	38.0	26.5	11.5	27.5	26.0	1.5

【生活時間に関する結果】

1 概況

○ 前回と比べると、1次活動時間は6分増加、2次活動時間は6分減少、3次活動時間は同数値

1日の生活時間をみると、1次活動時間は10時間44分、2次活動時間は6時間55分、3次活動時間は6時間21分となっている。平成23年と比べると、1次活動時間は6分増加、2次活動時間は6分減少、3次活動時間は同数値となっている。(図1-1、表1-1)

男女別にみると、1次活動時間、2次活動時間では女性が長く、3次活動時間では男性が長くなっている。(図1-2、表1-2)

平成8年と比べると、1次活動時間は5分増加、2次活動時間は15分減少、3次活動時間は10分増加となっている。(図1-3、表1-3)

図1-1 行動の種類別生活時間(平成23年、28年)

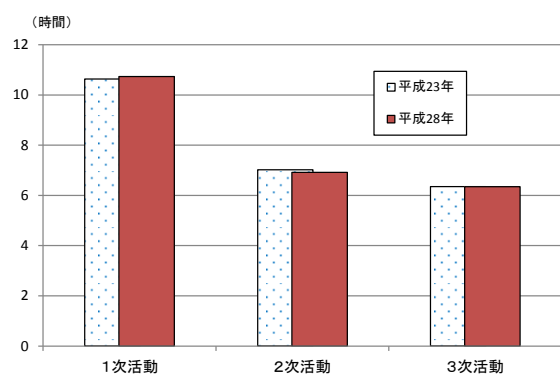


表1-1 行動の種類別生活時間(平成23年、28年)

	(時間.分)			
	平成23年	平成28年	前回との差	(参考) 全国28年
1次活動	10.38	10.44	0.06	10.41
2次活動	7.01	6.55	△ 0.06	6.57
3次活動	6.21	6.21	0.00	6.22

図1-2 行動の種類、男女別生活時間

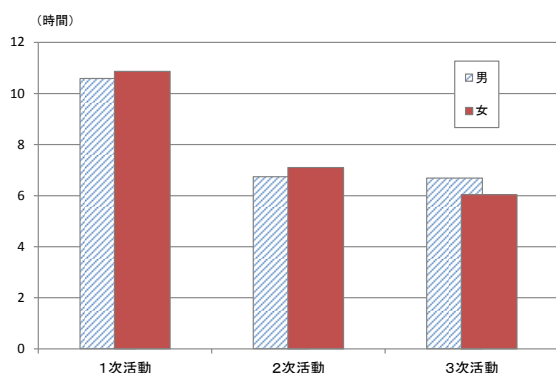


表1-2 行動の種類、男女別生活時間

	(時間.分)		
	男	女	差(男-女)
1次活動	10.35	10.52	△ 0.17
2次活動	6.44	7.06	△ 0.22
3次活動	6.41	6.02	0.39

図1-3 行動の種類別生活時間の推移

(平成8年~28年)

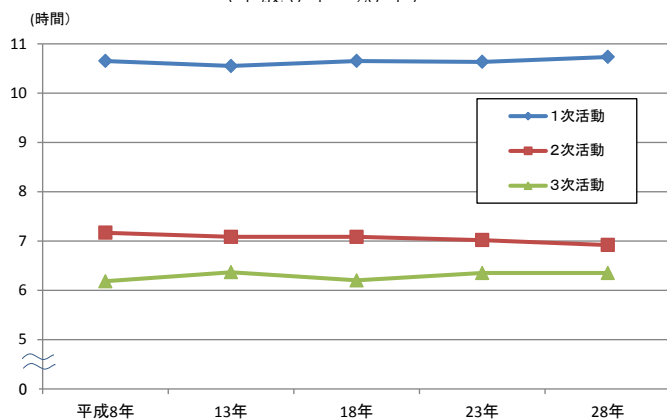


表1-3 行動の種類別生活時間の推移

(平成8年~28年)

	(時間.分)		
	1次活動	2次活動	3次活動
平成8年	10.39	7.10	6.11
平成13年	10.33	7.05	6.22
平成18年	10.39	7.09	6.12
平成23年	10.38	7.01	6.21
平成28年	10.44	6.55	6.21

2 1次活動

(1) 1次活動

○ 前回と比べると、睡眠時間は6分増加、身の回りの用事の時間は2分減少、食事の時間は2分増加

1次活動時間をみると、睡眠時間は7時間42分、身の回りの用事の時間は1時間21分、食事の時間は1時間41分となっている。平成23年と比べると、睡眠時間は6分増加、身の回りの用事の時間は2分減少、食事の時間は2分増加となっている。(図2-1、表2-1)

図2-1 行動の種類別1次活動時間
(平成23年, 28年)

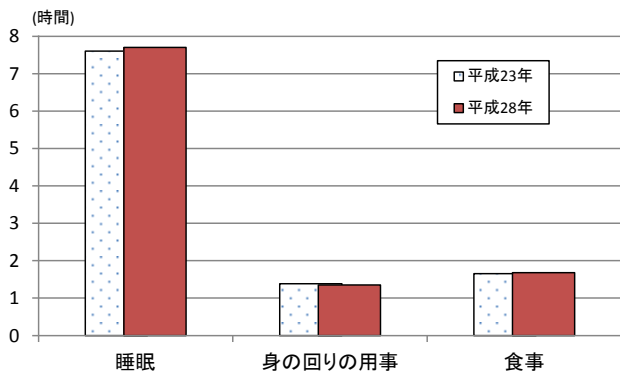


表2-1 行動の種類別1次活動時間
(平成23年, 28年)

	平成23年	平成28年	前回との差 (ポイント)	(参考) 全国28年
睡眠	7.36	7.42	0.06	7.40
身の回りの用事	1.23	1.21	△ 0.02	1.22
食事	1.39	1.41	0.02	1.40

(2) 睡眠時間

○ 男女共に45~54歳が最も短く、75歳以上が最も長い

睡眠時間は、男性7時間48分、女性7時間35分となっている。平成23年と比べると、男性は1分増加、女性は10分増加となっている。(表2-2)

年齢階級別にみると、男性は45~54歳で7時間25分と最も短く、75歳以上で8時間39分と最も長くなっている。女性は、45~54歳で6時間42分と最も短く、75歳以上で8時間32分と最も長くなっている。(図2-2、表2-2)

図2-2 男女、年齢階級別睡眠時間
(平成23年, 28年)

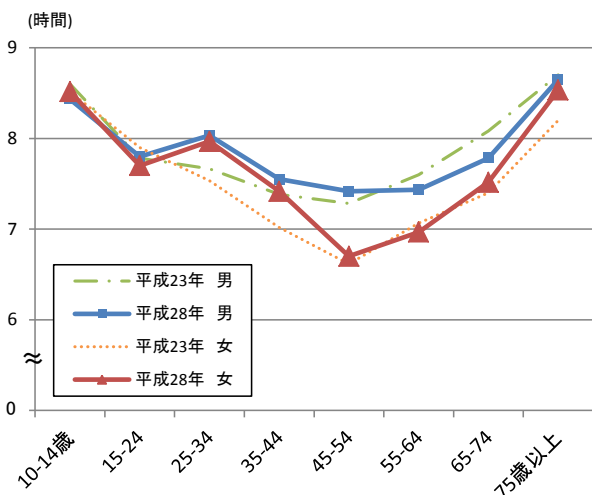


表2-2 男女、年齢階級別睡眠時間
(平成23年, 28年)

	男			女		
	平成23年	平成28年	前回との差 (ポイント)	平成23年	平成28年	前回との差 (ポイント)
総数	7.47	7.48	0.01	7.25	7.35	0.10
10-14歳	8.36	8.26	△ 0.10	8.31	8.31	0.00
15-24歳	7.47	7.48	0.01	7.54	7.42	△ 0.12
25-34歳	7.40	8.02	0.22	7.32	7.58	0.26
35-44歳	7.23	7.33	0.10	7.01	7.25	0.24
45-54歳	7.17	7.25	0.08	6.37	6.42	0.05
55-64歳	7.36	7.26	△ 0.10	7.04	6.58	△ 0.06
65-74歳	8.05	7.47	△ 0.18	7.24	7.31	0.07
75歳以上	8.42	8.39	△ 0.03	8.12	8.32	0.20

3 2次活動

(1) 2次活動

○ 前回と比べると、仕事時間は13分増加、家事時間は5分減少、育児時間は1分増加

2次活動時間をみると、仕事時間は3時間22分、家事時間は1時間27分、育児時間は17分などとなっている。平成23年と比べると、仕事時間は13分減少、家事時間は5分減少、育児時間は1分増加などとなっている。(図3-1、表3-1)

男女別にみると、仕事時間は男性が女性より2時間4分長く、家事時間は女性が男性より2時間4分長い。(図3-2、表3-2)

図3-1 行動の種類別2次活動時間
(平成23年, 28年)

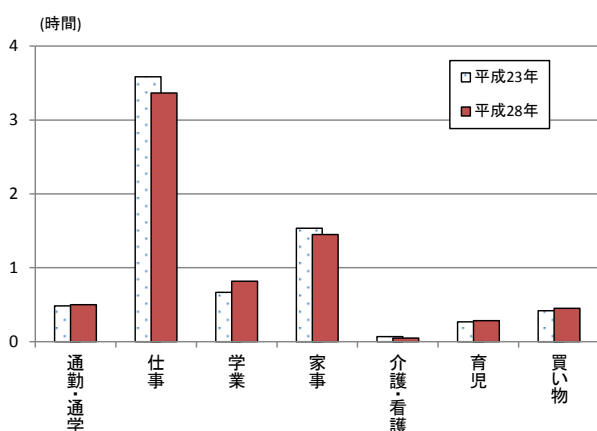


表3-1 行動の種類別2次活動時間
(平成23年, 28年)

	平成23年	平成28年	前回との差 (ポイント)	(参考) 全国28年
通勤・通学	0.29	0.30	0.01	0.34
仕事	3.35	3.22	△ 0.13	3.33
学業	0.40	0.49	0.09	0.42
家事	1.32	1.27	△ 0.05	1.23
介護・看護	0.04	0.03	△ 0.01	0.04
育児	0.16	0.17	0.01	0.15
買い物	0.25	0.27	0.02	0.26

図3-2 男女, 行動の種類別2次活動時間

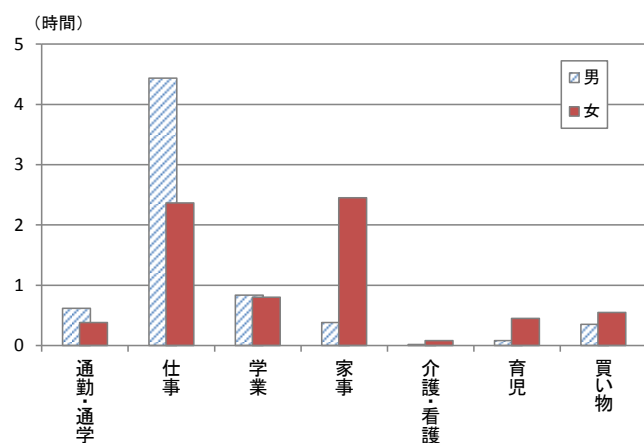


表3-2 男女, 行動の種類別2次活動時間

	男	女	差(男-女)
通勤・通学	0.37	0.23	△ 0.14
仕事	4.26	2.22	△ 2.04
学業	0.50	0.48	△ 0.02
家事	0.23	2.27	2.04
介護・看護	0.01	0.05	0.04
育児	0.05	0.27	0.22
買い物	0.21	0.33	0.12

(2) 仕事時間

- 前回と比べると、男性は21分減少、女性は5分減少
- 仕事・通勤時間の合計は、男女共に、全国及び関東大都市圏より短い

有業者¹⁾の仕事時間は、男性は6時間41分、女性は4時間41分となっている。平成23年と比べると、男性は21分減少、女性は5分減少となっている。(表3-3)

雇用形態別にみると、平成23年と比べて、正規の職員・従業員は9分減少、アルバイトは58分減少など、全ての雇用形態で減少となっている。(図3-4, 表3-4)

平日の仕事からの平均帰宅時間は、18時57分となっており、全国より4分遅く、関東大都市圏²⁾より15分早い。(表3-5)

平日の仕事・通勤時間の合計は、9時間28分となっており、全国より13分短く、関東大都市圏より40分短い。(表3-6)

図3-3 男女、年齢階級別仕事時間(平成23年, 28年)

- 有業者, 15歳以上

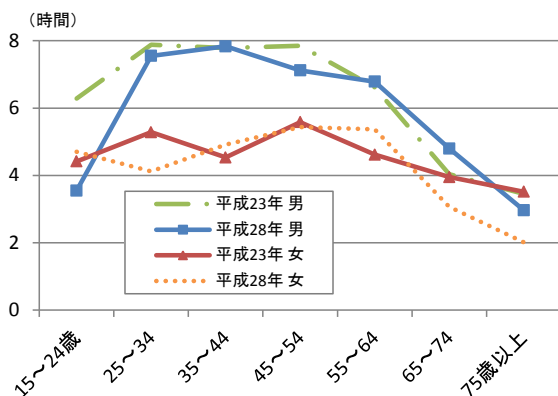


図3-4 雇用形態別仕事時間(平成23年, 28年)

- 雇用されている人, 15歳以上

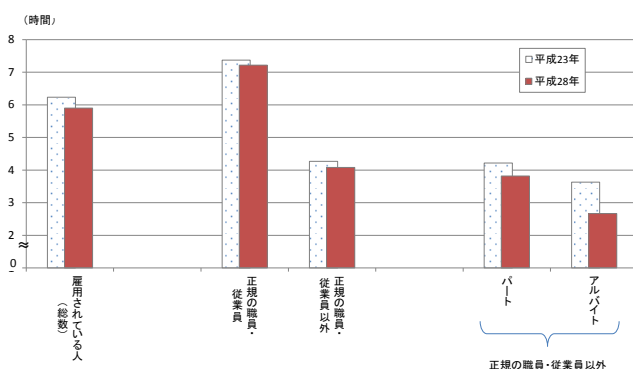


表3-5 仕事からの平均帰宅時刻 - 平日, 有業者, 15歳以上

	(時間. 分)		
	広島県	全国平均	関東大都市圏
総数	18.57	18.53	19.12
男	19.34	19.31	19.49
女	18.04	17.59	18.15

表3-3 男女、年齢階級別仕事時間(平成23年, 28年)

- 有業者, 15歳以上

	男			女		
	平成23年	平成28年	前回との差(ポイント)	平成23年	平成28年	前回との差(ポイント)
総数	7.02	6.41	△ 0.21	4.46	4.41	△ 0.05
15~24歳	6.17	3.33	△ 2.44	4.25	4.42	0.17
25~34歳	7.53	7.33	△ 0.20	5.17	4.07	△ 1.10
35~44歳	7.47	7.50	0.03	4.32	4.55	0.23
45~54歳	7.51	7.07	△ 0.44	5.35	5.26	△ 0.09
55~64歳	6.37	6.47	0.10	4.37	5.22	0.45
65~74歳	4.02	4.48	0.46	3.57	3.04	△ 0.53
75歳以上	3.27	2.58	△ 0.29	3.31	2.01	△ 1.30

表3-4 雇用形態別仕事時間(平成23年, 28年)

- 雇用されている人, 15歳以上

	(時間. 分)		
	平成23年	平成28年	前回との差(ポイント)
雇用されている人(総数)	6.14	5.54	△ 0.20
正規の職員・従業員	7.22	7.13	△ 0.09
正規の職員・従業員以外	4.16	4.05	△ 0.11
パート	4.13	3.49	△ 0.24
アルバイト	3.38	2.40	△ 0.58

表3-6 仕事・通勤時間の合計

- 平日, 行動者平均時間, 15歳以上

	(時間. 分)		
	広島県	全国平均	関東大都市圏
総数	9.28	9.41	10.08
男	10.21	10.35	11.02
女	8.12	8.23	8.44

1) 15歳以上の人で、ふだんの状態として、収入を目的とした仕事を続けている人

2) さいたま市, 千葉市, 東京特別区部, 横浜市, 川崎市, 相模原市

(3) 家事時間

- 前回と比べると、男性は3分増加、女性は13分減少
- 男性は75歳以上が48分、女性は65～74歳が3時間23分と最も長い

家事時間は、男性は23分、女性は2時間27分となっている。平成23年と比べると、男性は3分増加、女性は13分減少となっている。(表3-7)

年齢階級別にみると、男性は75歳以上が48分、女性は65～74歳が3時間23分と最も長くなっている。平成23年と比べると、男性は10～14歳、35～44歳及び75歳以上を除く全ての年齢階級で増加、女性は65～74歳を除く全ての年齢階級で減少となっている。(図3-5、表3-7)

図3-5 男女、年齢階級別家事時間
(平成23年、28年)

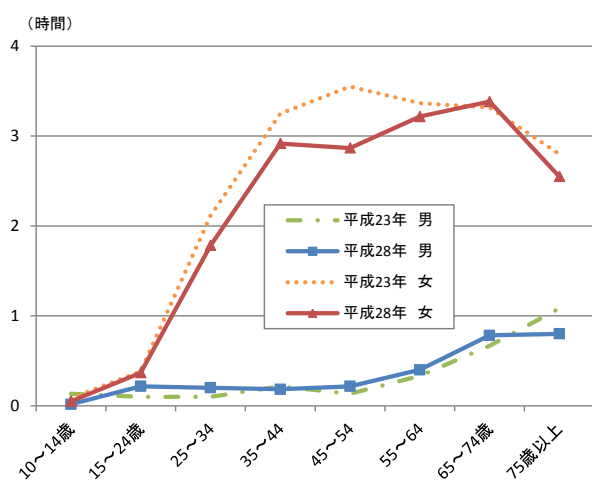


表3-7 男女、年齢階級別家事時間
(平成23年、28年)

	男			女		
	平成23年	平成28年	前回との差 (ポイント)	平成23年	平成28年	前回との差 (ポイント)
総数	0.20	0.23	0.03	2.40	2.27	△ 0.13
10～14歳	0.08	0.01	△ 0.07	0.05	0.03	△ 0.02
15～24歳	0.06	0.13	0.07	2.07	1.47	△ 0.20
25～34歳	0.06	0.12	0.06	3.15	2.55	△ 0.20
35～44歳	0.13	0.11	△ 0.02	3.33	2.52	△ 0.41
45～54歳	0.08	0.13	0.05	3.22	3.13	△ 0.09
55～64歳	0.20	0.24	0.04	3.19	3.23	0.04
65～74歳	1.05	0.48	△ 0.17	2.48	2.33	△ 0.15

図3-6 男女別家事時間の推移 (平成8年～28年)

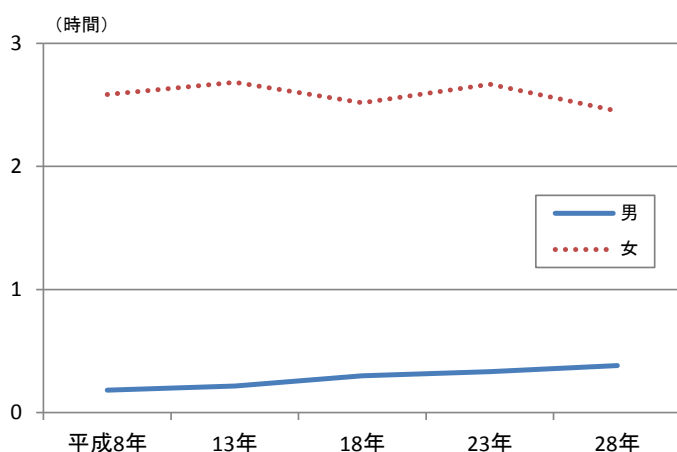


表3-8 男女別家事時間の推移 (平成8年～28年)

	(時間.分)		
	男	女	差(男-女)
平成8年	0.11	2.35	△ 2.24
平成13年	0.13	2.41	△ 2.28
平成18年	0.18	2.31	△ 2.13
平成23年	0.20	2.40	△ 2.20
平成28年	0.23	2.27	△ 2.04
(参考)全国28年	0.19	2.24	△ 2.05

(4) 育児時間

- 6歳未満の子供のいる夫・妻の育児時間は、夫は36分(8分減少)、妻は4時間22分(42分増加)
- 関東大都市圏と比べると、夫は2分、妻は18分長い

育児時間は、男性は6分、女性は29分となっている。平成23年と比べると、男性は1分減少、女性は4分増加となっている。(表3-9)

年齢階級別にみると、男女共に25～34歳が最も長く、男性は20分、女性は2時間11分となっている。(図3-7, 表3-9)

6歳未満の子供のいる夫・妻の育児時間は、平成23年と比べると、夫は8分減少、妻は42分増加となっている。関東大都市圏と比べると、夫・妻共に長くなっている。(図3-8, 表3-10)

図3-7 男女、年齢階級別育児時間

(平成23年, 28年) - 15歳以上

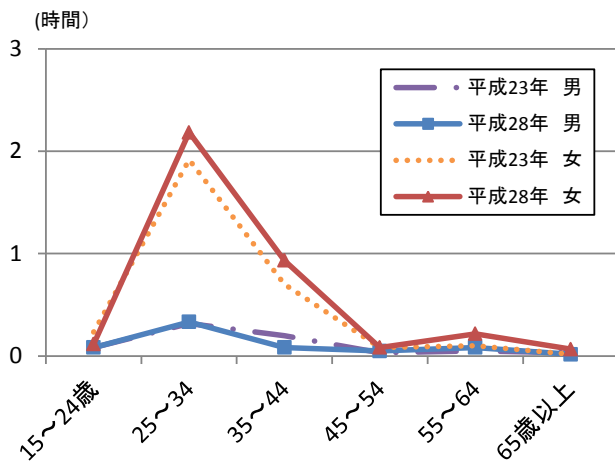


表3-9 男女、年齢階級別育児時間

(平成23年, 28年) - 15歳以上

	男			女		
	平成23年	平成28年	前回との差 (ポイント)	平成23年	平成28年	前回との差 (ポイント)
総数	0.07	0.06	△ 0.01	0.25	0.29	0.04
15~24歳	0.05	0.05	0.00	0.14	0.07	△ 0.07
25~34歳	0.19	0.20	0.01	1.55	2.11	0.16
35~44歳	0.12	0.05	△ 0.07	0.42	0.56	0.14
45~54歳	0.02	0.03	0.01	0.05	0.05	0.00
55~64歳	0.03	0.05	0.02	0.06	0.13	0.07
65歳以上	0.02	0.01	△ 0.01	0.02	0.04	0.02

図3-8 6歳未満の子供のいる夫・妻の育児時間 (平成23年, 28年)

(広島県, 関東大都市圏) - 平日

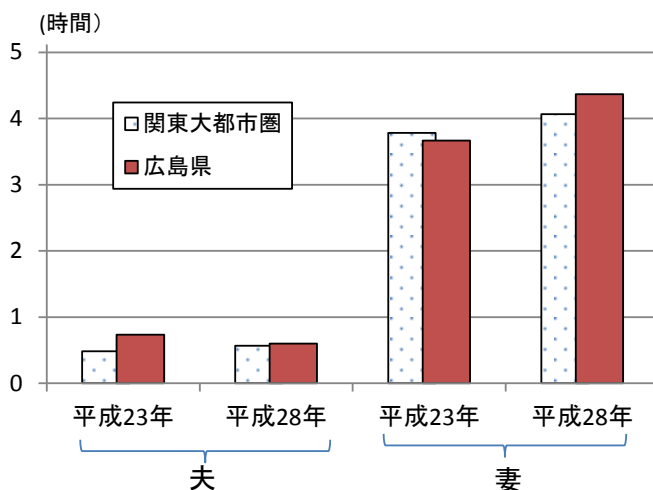


表3-10 6歳未満の子供のいる夫・妻の育児時間 (平成23年, 28年)

(広島県, 関東大都市圏) - 平日

	夫		妻	
	広島県	関東大都市圏	広島県	関東大都市圏
平成23年	0.44	0.29	3.40	3.47
平成28年	0.36	0.34	4.22	4.04
前回との差 (ポイント)	△ 0.08	0.05	0.42	0.17

4 3次活動

(1) 3次活動

○前回と比べると、

- ・増加したのは、休養・くつろぎ 12分、趣味・娯楽 1分 など
- ・減少したのは、移動 4分、交際・付き合い 4分 など
- ・同数値は、学習・自己啓発・訓練及びスポーツ など

3次活動をみると、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間は2時間24分、休養・くつろぎの時間1時間36分、学習・自己啓発・訓練（学業以外）の時間は12分、趣味・娯楽の時間は43分、スポーツの時間は14分、ボランティア活動・社会参加活動の時間は5分、交際・付き合いの時間は13分などとなっている。平成23年と比べると、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間は3分減少、休養・くつろぎの時間は12分増加、学習・自己啓発・訓練（学業以外）の時間は同数値、趣味・娯楽の時間は1分増加、スポーツの時間及びボランティア活動・社会参加活動の時間は同数値、交際・付き合いの時間は4分減少などとなっている。（図4-1、表4-1）

図4-1 行動の種類別3次活動時間（平成23年，28年）

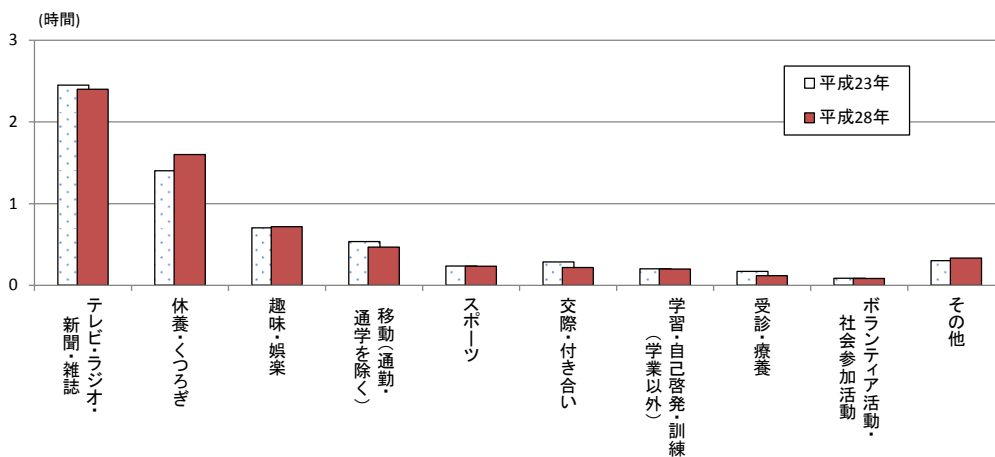


表4-1 行動の種類別3次活動時間（平成23年，28年）

	(時間.分)									
	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	休養・くつろぎ	趣味・娯楽	移動(通勤・通学を除く)	スポーツ	交際・付き合い	学習・自己啓発・訓練(学業以外)	ボランティア活動・社会参加活動	受診・療養	その他
平成23年	2.27	1.24	0.42	0.32	0.14	0.17	0.12	0.05	0.10	0.18
平成28年	2.24	1.36	0.43	0.28	0.14	0.13	0.12	0.05	0.07	0.20
前回との差(ポイント)	△ 0.03	0.12	0.01	△ 0.04	0.00	△ 0.04	0.00	0.00	△ 0.03	0.02
(参考)全国28年	2.15	1.37	0.47	0.29	0.14	0.17	0.13	0.04	0.08	0.19

(2) 休養等自由時間活動

- 前回と比べると、男性は16分増加、女性は1分増加
- 男女共に75歳以上が最も長い

休養等自由時間活動¹⁾の時間は、男性は4時間9分、女性は3時間51分となっている。平成23年と比べると、男性は16分増加、女性は1分増加となっている。(表4-2)

年齢階級別にみると、男女共に75歳以上が最も長くなっている。平成23年と比べると、男性は10～34歳を除く全ての年齢階級で増加となっているが、女性は45～54歳及び65歳以上を除く全ての年齢階級で減少となっている。(図4-2, 表4-2)

図4-2 男女、年齢階級別休養等自由時間活動の時間

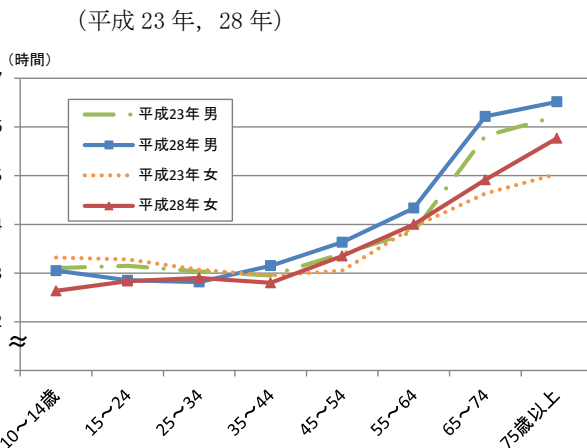


表4-2 男女、年齢階級別休養等自由時間活動の時間

(平成23年, 28年)

	男			女		
	平成23年	平成28年	前回との差(ポイント)	平成23年	平成28年	前回との差(ポイント)
総数	3.53	4.09	0.16	3.50	3.51	0.01
10～14歳	3.06	3.03	△ 0.03	3.19	2.38	△ 0.41
15～24歳	3.09	2.51	△ 0.18	3.17	2.50	△ 0.27
25～34歳	3.02	2.49	△ 0.13	3.04	2.54	△ 0.10
35～44歳	2.57	3.09	0.12	2.57	2.48	△ 0.09
45～54歳	3.24	3.38	0.14	3.03	3.21	0.18
55～64歳	3.51	4.20	0.29	3.57	4.00	△ 0.03
65～74歳	5.49	6.13	0.24	4.38	4.55	0.17
75歳以上	6.13	6.31	0.18	5.42	5.46	0.04

(3) 積極的自由時間活動

- 前回と比べると、男性は1分増加、女性は1分減少
- 男性は15～24歳が2時間37分と最も長く、女性は10～14歳が1時間43分と最も長い

積極的自由時間活動²⁾の時間は、男性は1時間27分、女性は1時間となっている。平成23年と比べると、男性は1分増加、女性は1分減少となっている。

年齢階級別にみると、男性は15～24歳が2時間37分、女性は10～14歳が1時間43分と最も長くなっている。(図4-3, 表4-3)

図4-3 男女、年齢階級別積極的自由時間活動の時間

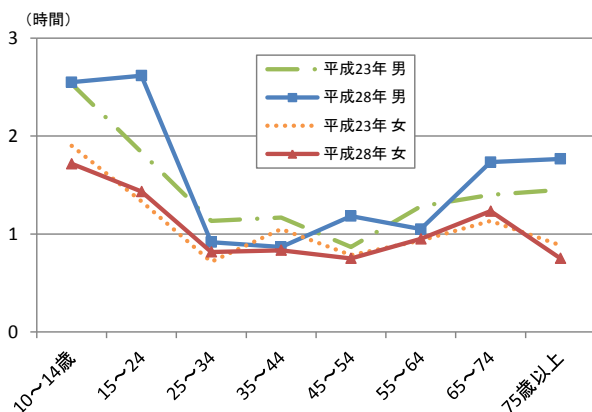


表4-3 男女、年齢階級別積極的自由時間活動の時間

(平成23年, 28年)

	男			女		
	平成23年	平成28年	前回との差(ポイント)	平成23年	平成28年	前回との差(ポイント)
総数	1.26	1.27	0.01	1.01	1.00	△ 0.01
10～14歳	2.32	2.33	0.01	1.54	1.43	△ 0.11
15～24歳	1.50	2.37	0.47	1.20	1.26	0.06
25～34歳	1.08	0.55	△ 0.13	0.43	0.49	0.06
35～44歳	1.10	0.52	△ 0.18	1.03	0.50	△ 0.13
45～54歳	0.52	1.11	0.19	0.47	0.45	△ 0.02
55～64歳	1.17	1.03	△ 0.14	0.56	0.57	0.01
65～74歳	1.24	1.44	0.20	1.08	1.14	0.06
75歳以上	1.27	1.46	0.19	0.53	0.45	△ 0.08

1) テレビ・ラジオ・新聞・雑誌及び休養・くつろぎ

2) 学習・自己啓発・訓練(学業以外)、趣味・娯楽、スポーツ及びボランティア活動・社会参加活動

(4) スマートフォン・パソコンなどの使用

- 使用割合は、男性は59.3%、女性は53.9%
- 18-21時及び21-24時の時間帯で行動者率が高い

スマートフォン・パソコンなどを使用した人の割合¹⁾（以下「使用割合」という。）は、男性は59.3%、女性は53.9%となっている。年齢階級別にみると、男性は25～29歳が91.5%、女性は30～34歳が90.8%と最も高くなっている。（図4-4、表4-4）

使用割合が男女共に6割を超えている15～49歳について、年齢階級別に使用した時間帯別の行動者率をみると、18～21時及び21～24時の時間帯で行動者率が高い。（図4-5、表4-5）

図4-4 男女、年齢階級別、スマートフォン・パソコンなどの使用割合

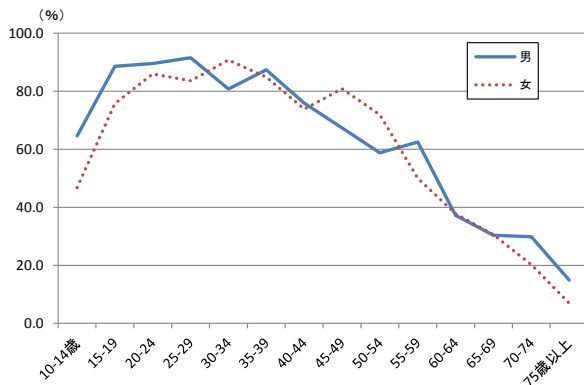


表4-4 男女、年齢階級別スマートフォン・パソコンなどを使用した人の人数及び割合

	男			女		
	人口 (千人)	使用した人 (千人)	使用割合 (%)	人口 (千人)	使用した人 (千人)	使用割合 (%)
総数	1215	721	59.3	1292	696	53.9
10～14歳	65	42	64.6	62	29	46.8
15～19歳	70	62	88.6	66	50	75.8
20～24歳	67	60	89.6	64	55	85.9
25～29歳	71	65	91.5	67	56	83.6
30～34歳	78	63	80.8	76	69	90.8
35～39歳	87	76	87.4	86	73	84.9
40～44歳	108	82	75.9	107	79	73.8
45～49歳	98	66	67.3	99	80	80.8
50～54歳	80	47	58.8	82	59	72.0
55～59歳	80	50	62.5	82	41	50.0
60～64歳	86	32	37.2	90	34	37.8
65～69歳	112	34	30.4	121	37	30.6
70～74歳	77	23	29.9	89	18	20.2
75歳以上	134	20	14.9	202	14	6.9

図4-5 年齢階級、スマートフォン・パソコンなどの使用時間帯別行動者率 - 平日、15～49歳

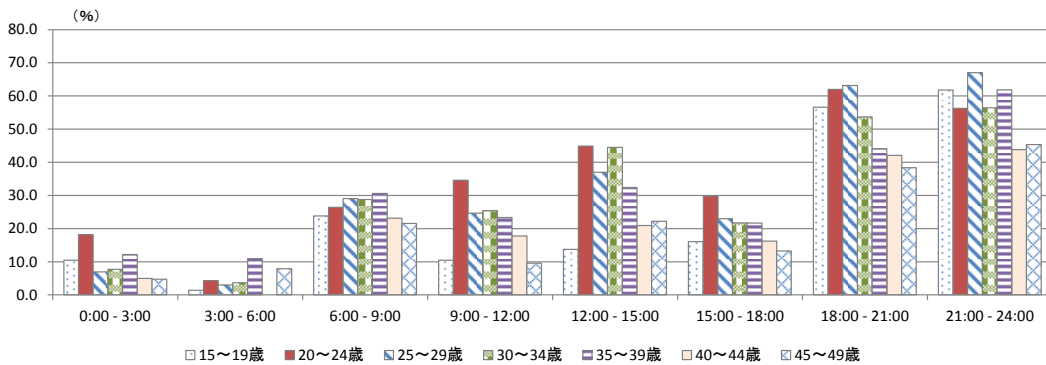


表4-5 年齢階級、スマートフォン・パソコンなどの使用時間帯別行動者率 - 平日、15～49歳

	(時間. 分)							
	0:00 - 3:00	3:00 - 6:00	6:00 - 9:00	9:00 - 12:00	12:00 - 15:00	15:00 - 18:00	18:00 - 21:00	21:00 - 24:00
15～19歳	10.49	1.43	23.82	10.47	13.74	16.07	56.56	61.75
20～24歳	18.11	4.29	26.43	34.57	44.89	29.80	62.00	56.27
25～29歳	6.93	3.00	29.05	24.67	36.97	22.96	63.15	67.02
30～34歳	7.75	3.67	28.79	25.41	44.49	21.76	53.65	56.41
35～39歳	12.18	10.93	30.61	23.37	32.40	21.67	44.05	61.85
40～44歳	4.95	-	23.11	17.80	20.92	16.22	42.10	43.84
45～49歳	4.78	7.91	21.54	9.59	22.22	13.30	38.34	45.35

注) ここでいう「スマートフォン・パソコンなど」とは、スマートフォン・パソコンのほか、スマートフォン以外の携帯電話、タブレット型端末を含む

注) ここでいう「スマートフォン・パソコンなどの使用」とは、学業、仕事以外の目的で使用した場合をいう

1) スマートフォン・パソコンなどの使用割合は、人口に占めるスマートフォン・パソコンなどを使用した人の割合を算出